



ほそや としゆき

細谷敏幸

経団連生活サービス委員長
三越伊勢丹ホールディングス社長

「引っ越し」

私は引っ越しが好きだ。結婚してかれこれ30年ほどになるが、14〜15回している。社命での転居を伴う出向が2度ほどあるので、後の引っ越しは自己都合によるものである。あのエリアに住んでみたい、設計にかかわってみたい、タワーマンションに住んでみたい、郊外型の庭付き一戸建てにも興味があるなどきっかけは様々ではあるが、全てのスタートは「好奇心」なのだろう。新しい街やそこに住んでいる人々の個性、新しい建物、建てている間の過程にもワクワクするし、勉強にもなる。勉強になると言えば、引っ越しの業者さんもいつも違ったところにお願ひするので、そのノウハウの違い、特徴、強みを観察することも楽しい。

引っ越しをするようになったきっかけは、結婚して実家の酒屋のすぐそばの空いている土地に小さな家を建てたことだ。それから2年ほどして伊勢丹府中店の開店が決まり、その開店準備室に異動となる。家から伊勢丹府中店・開店準備室まで1時間半〜2

時間かけて通っていたのだが、開店準備も佳境になると終電で帰るようになり、それならばいつそのと府中店・開店準備室の事務所の近くに引っ越しをしてしまえとの発想に至った。一度踏ん切りがついたら、次からの引っ越しは実行力が増す。

もちろん家族には本当に迷惑をかけていると思っている。引っ越しの際の荷物のパッキングのほぼ全ては妻がやってくれるし、息子は次にどこに引っ越すかさえも知らない。朝、息子が学校に出かけていくと帰りは違った住まいになっている、ということも2度ほどあった。学校の帰りに駅で待ち合わせて、私がそこに夕方迎えに行く、そして新しい物件に向かつて、『今度の住まい、ここだよ。』と説明するといった具合である。

このような多くの引っ越しの経験、つまりいろいろなことに対する「好奇心」は、少なからず、新しい発想を必要とする小売業、百貨店業に勤めている私の仕事には役立っていると信じている。